

令和4年度くずし字入門講座

第3回

頻出文字・言い回し

日時：2022/06/18（土）10：30～12：00

会場：福井県文書館研修室

講師：文書館 田川

本講座の流れ

- 1 頻出文字に慣れる**
- 2 頻出する言い回しに慣れる**
- 3 実際に資料を読んでみる**

資料 1

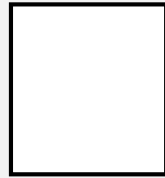
明治政府が民衆に対して出した最初の「定」



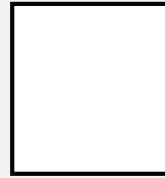
飯田忠光家文書「定（五榜の掲示、第三札）」 G0013-00786

まずは5つの文字に注目！

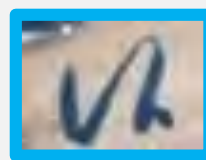
水 水 水



之 之 之



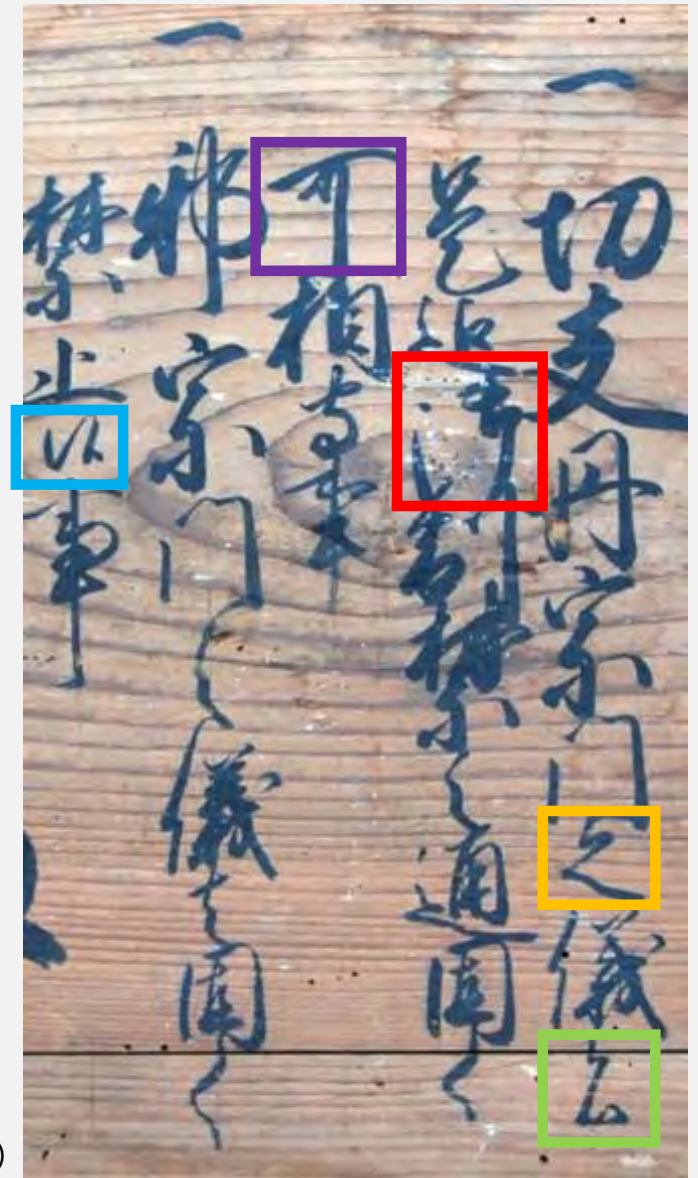
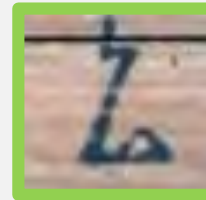
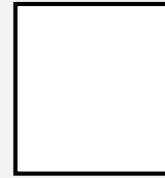
以 以 以



可 可 可



者 者 者



まずは5つの文字に注目！



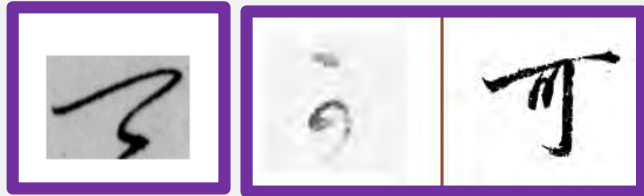
御



之



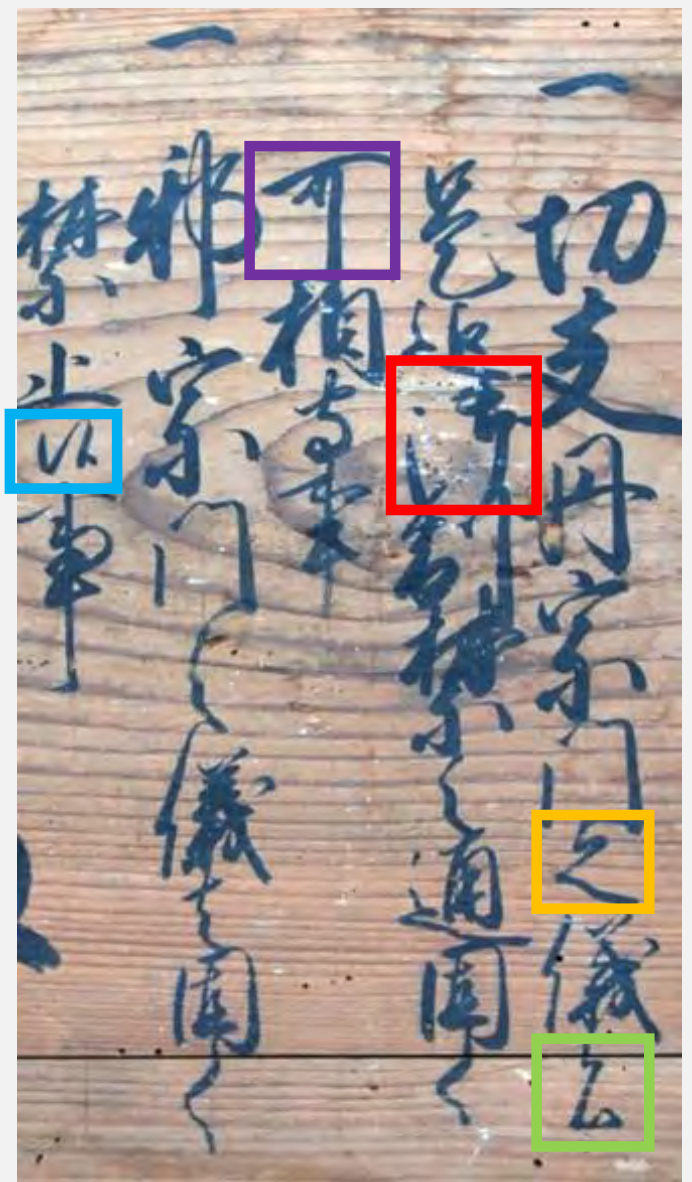
候



可



者



資料 2

- 1848（嘉永元）年刊行の絵入りの往来物（＝教科書）。
- 日常生活でよく用いる文例が掲載されている。



勝見宗左衛門家文書「大成用文章（往来物）」 B0037-00712

今回扱う部分

9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 領申合子之事

2 一金何指也 但利月何事

3 右者此度我亦要用首之書面

4 合子様領申屬美定迄海邊


5 何時家法用也事同次申別

6 此合子仕以右後目之新説又係事

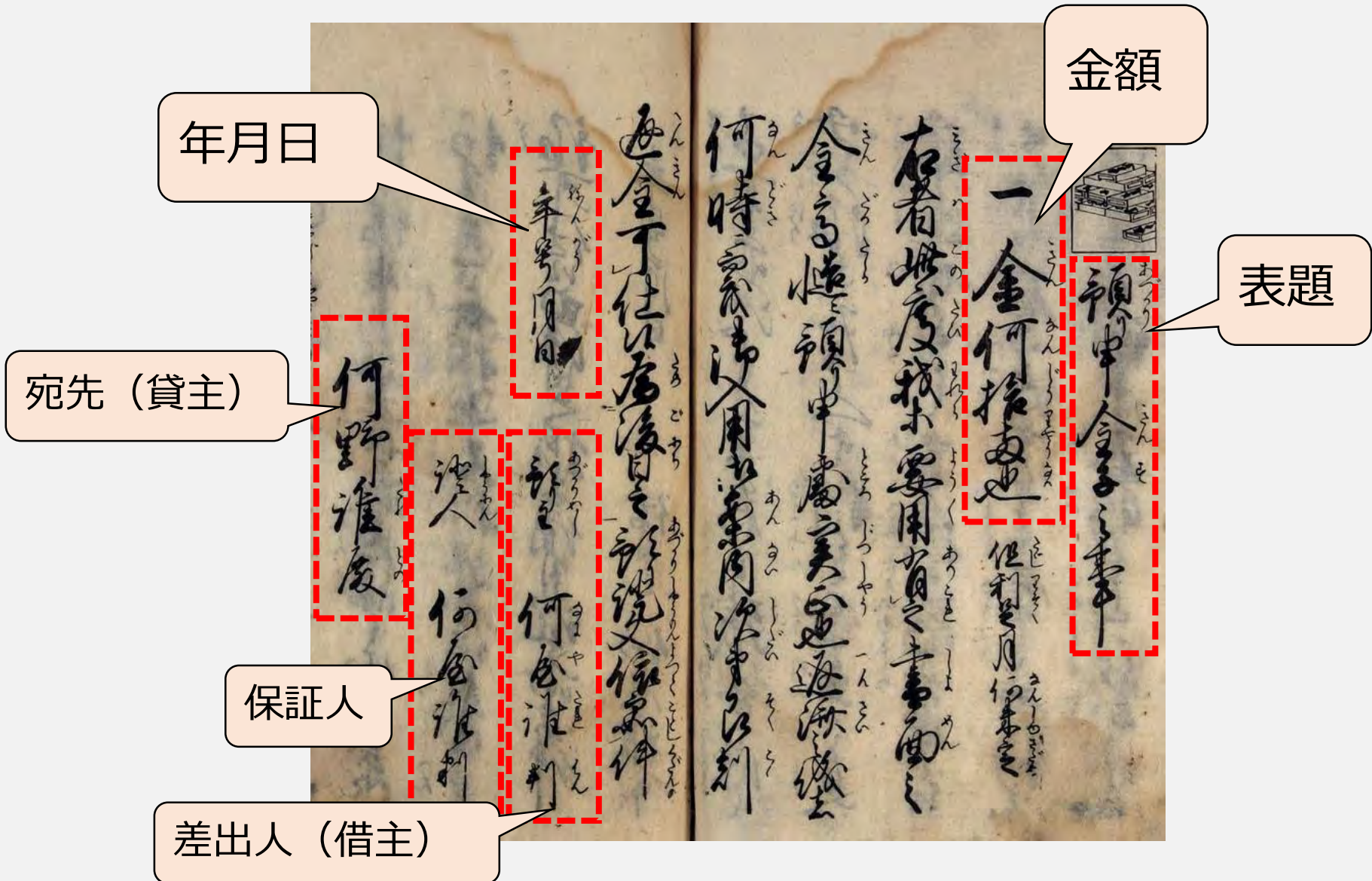
7 年号月日

8 何金誰判

9 何野誰辰



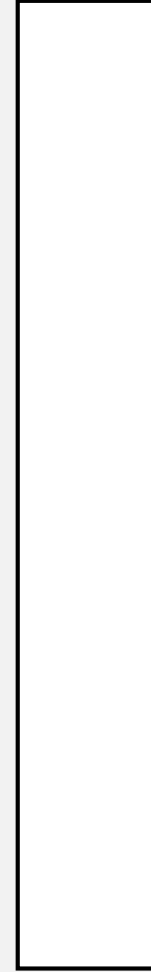
資料の全体像をつかむ



読んでみよう (1~2行目)

一金何拾() ()也 但利足月何() ()定

一金何拾也
但利足月何定

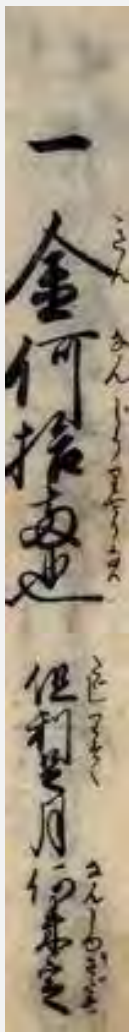


願申一金子之事

読んでみよう (1～2行目)

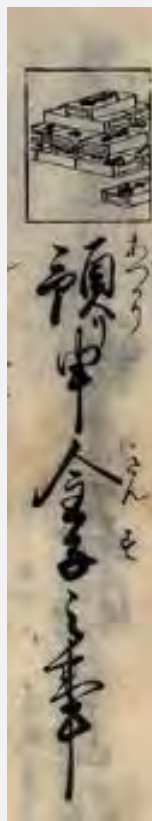
「金」の単位は両。 一両 \equiv 四分 \equiv 十六朱

一 金何拾兩也 但利足月何朱定

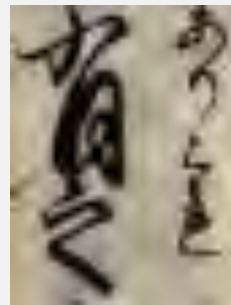
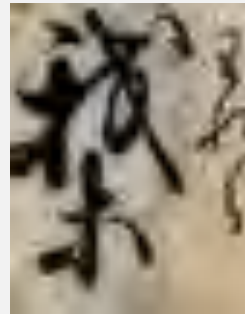
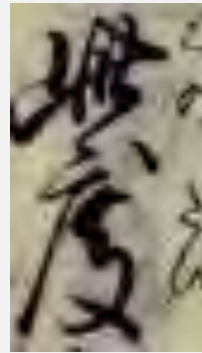


「○○申△△之事」とは、古文書でよくみられる表題で、「△△を○○します」という意味。

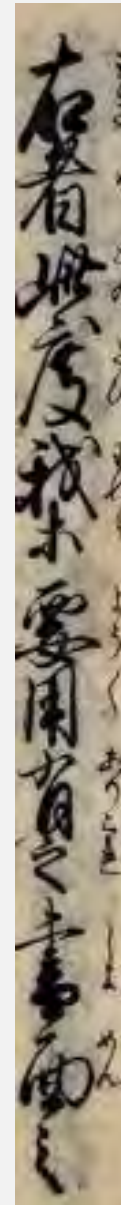
預り申金子之事



読んでみよう (3行目)



右者 () (要用) () 、書面之

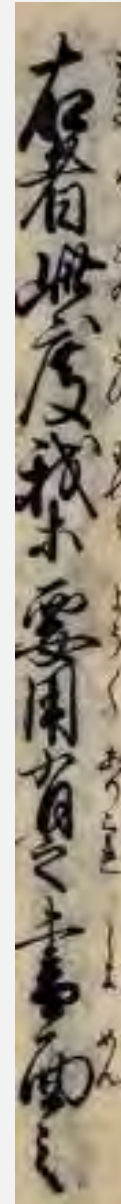


読んでみよう (3行目)



返読文字

右者此度我等要用有之、書面之



読んでみよう (4行目)



亼 禮 傳 證 當



--	--	--	--	--

古文書でよく出る旧字・異体字

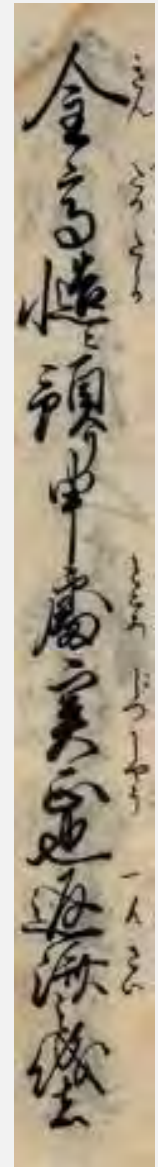


處



--

金高 () (預り) () (也、返済) ()



読んでみよう (4行目)



亼 禮 傳 證 當



事 礼 伝 証 当

古文書でよく出る旧字・異体字

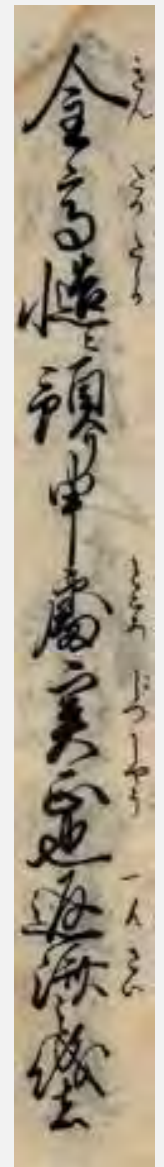


處

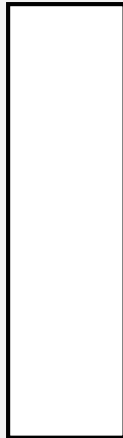
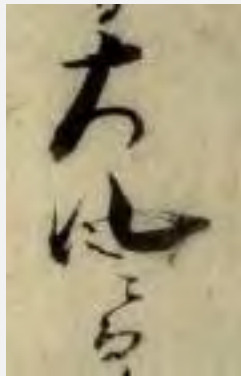


処

金高慥一預り申処実正也、返済之儀者
(たしかに) (じっしょう)

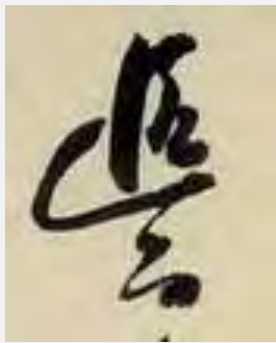


読んでみよう (5行目)



「而」の用例

玉川区有文書
「差入申一札之事」 D0076-00313

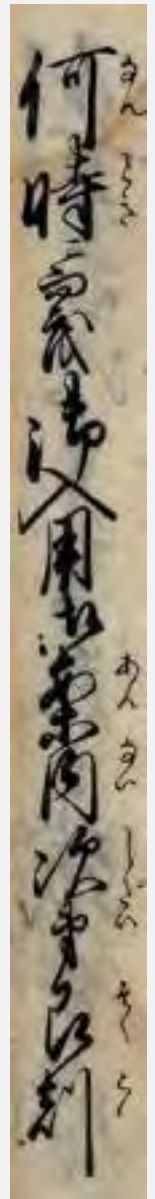


勝見宗左衛門家文書
「寺請状一札」 B0037-00396

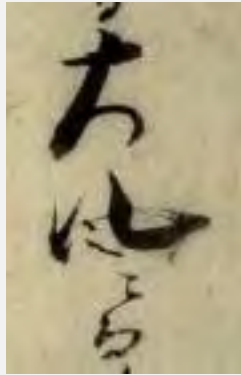


吉川充雄家文書「其翌日十二日御役所二而被仰候覚」
C0037-00045

何時（ ）御入用御案内次第、即刻



読んでみよう (5行目)



大風二而

玉川区有文書
「差入申一札之事」 D0076-00313

「而」の用例



追而

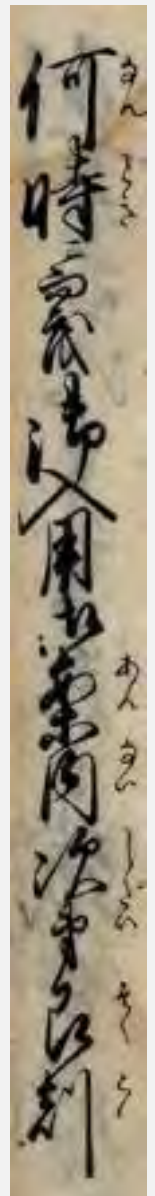
勝見宗左衛門家文書
「寺請状一札」 B0037-00396



御役所二而

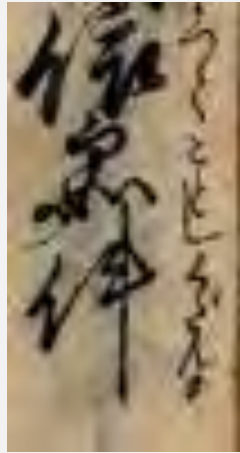
吉川充雄家文書「其翌日十二日御役所二而被仰候覚」
C0037-00045

何時二而茂御入用御案内次第、即刻

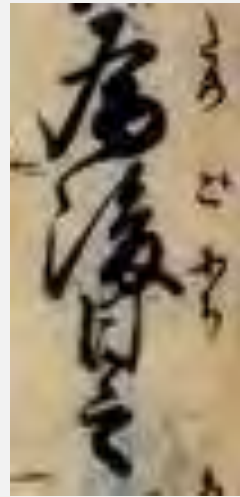


読んでみよう（6行目）

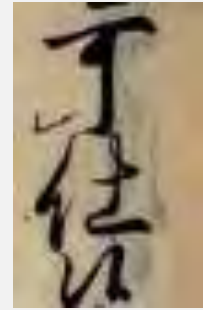
依而如件^レ依って（仍って）件（くだん）の^レとし。
↓以上の通りです（証文の書止文言）



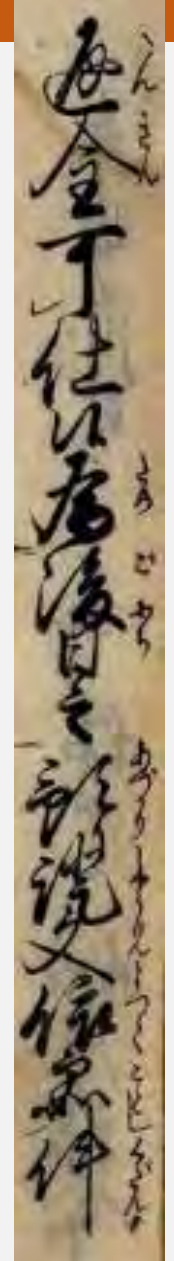
為後日之^レ後日のため。↓後日何かあった時のため



可仕候^レ仕るべく候。↓返金いたします（意志）

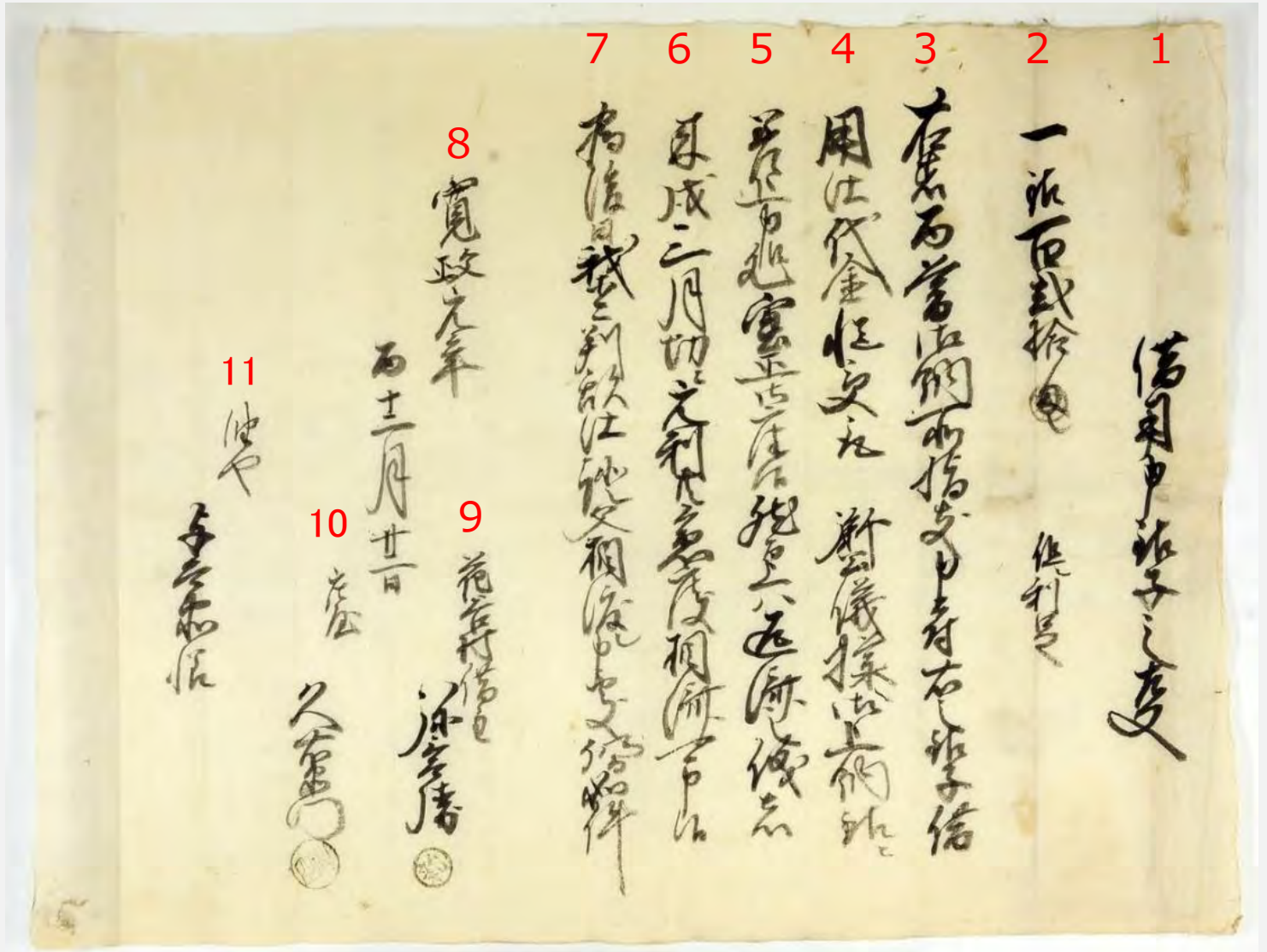


返金可仕候、為後日之預り証文、依而如件



資料3 (力試し)

別紙の解答用紙に書き込んでみましょう。
わかる部分だけで大丈夫です！
わからない箇所は□にしておきましょう。



「読めた！」という経験が大事

「資料3」は入門者にはやや難しく、全文は読めないだろうという前提で出題しています。

とはいえ、3回の講座を経て、少しは読める部分があったのではないのでしょうか？



このように「読めた！」という経験を積み重ねることがモチベーションUPにつながっていきます。繰り返し練習していきましょう。

本講座のまとめ

1 頻出文字に慣れる

→御・之・候・可・者

2 頻出する言い回しに慣れる

→有之、可仕候、依而如件など

3 実際に資料を読んでみる

→借用証文を翻刻

本講座で使用した資料

【読解用教材として】

- ・ 飯田忠光家文書「定（五榜の掲示、第三札）」 G0013-00786
- ・ 勝見宗左衛門家文書「大成用文章（往来物）」 B0037-00712
- ・ 吉野屋文書「借用申銀子之事」 B0030-00723

★すべて「デジタルアーカイブ福井」で閲覧可能

【参考画像として】

- ・ 史的文字データベース連携検索システム（国文学研究資料館、東大史料編纂所）

<https://mojiportal.nabunken.go.jp/>

参考文献

<書籍>

- ・『三くだり半からはじめる古文書入門』（高木侃 柏書房 2011年）
- ・『古文書はじめの一步』（油井宏子 柏書房 2008年）
- ・『六十の手習い 古文書を読む』（山本光正 同成社 2015年）

<インターネット>

- ・福井県文書館HP トップページ下のメニュー「くずし字講座」

<https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/category/nyumon/26716.html>